

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護援助論Ⅱ	NSP33_004	必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	金曜日 14:40～16:10		
授業の目的・概要	この講義では健康問題を持つ高齢者に対して、個々の生活過程や価値観等を踏まえた包括的視点でアセスメントし、看護過程を展開する方法を習得する。高齢者特有の健康問題に対して、様々な健康の段階における事例を看護展開し、その人らしさを生かし持てる力を引き出すことが出来る看護について考察し、病院における高齢者看護の要点を理解することを目的とする。				
授業形式・方法	☒ 対面授業 ☒ 講義 ☒ 演習 ☐ PBL ☐ 反転授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 実習 ☐ 実技 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 遠隔授業(自主学習) ☐ その他 ()				
学習上の助言	健康問題を持つ高齢者に対して、その人らしさを生かし本人・家族の持つ力を最大限に生かすことが出来る看護について、講義と演習を中心に理解を深める。事例検討、事後課題により学修の確認を行う。授業中の疑問点については、授業中の質問・振り返り用紙等を積極的に活用し解決するように努めること。				
教科書	生活機能からみた老年看護過程 第4版+病態・生活機能関連図 /著:山田律子 /医学書院 /2020				
参考書	・ナツシゲガフカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 (第6版) /編:堀内ふき 他 /メディカ出版 /2021 ・ナツシゲガフカ 老年看護学①高齢者看護の実践 (第5版) /編:堀内ふき 他 /メディカ出版 /2022 ・老年看護 病態・疾患論(第5版) /著:羽柴研二 /医学書院 /2018				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	高齢者に特有な健康問題の特性・治療・看護と、個々の生活過程等や価値観等を踏まえた包括的アセスメントの視点について説明することができる。			NS(1)～(5)	
②	様々な健康問題の段階(急性期・回復期・維持期等)に応じた高齢者看護の要点に関して説明することができる。			NS(1)～(5)	
③	高齢者の個性性、価値観、家族、社会背景を踏まえた人生の最終段階における看護について考察できる。			NS(1)～(5)	
④	高齢者の尊厳と生活の質(Quality Of Life=QOL)を支える看護について考察できる。			NS(1)～(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	高齢者に対する看護過程:ICF(国際生活機能分類)と生活機能モデルの基本的な考え方を学ぶ。	講義	配布資料を読んだうえで、教科書で生活機能モデルの基本的な考え方と ICF について調べる。	2	
2		講義		2	
3	高齢者に対する看護過程:高齢者の看護過程を展開する際に必要な看護アセスメントの視点を学ぶ。	講義	看護過程を展開する際に必要な生活行動のアセスメントの要点を理解する。	2	
4		講義		2	
5	高齢者の疾患と看護:高齢者に特徴的な疾患を持つ高齢者の看護過程の要点を学ぶ。	講義	高齢者に特徴的な整形外科疾患や、整形外科疾患を持つ高齢者の看護について要点をまとめる。	2	
6		講義		2	
7	高齢者の疾患と看護:急性期にある高齢者の看護過程について学ぶ。	講義	急性期にある高齢者の特徴、看護の視点について調べ、要点をまとめる。	2	
8		講義		2	
9	高齢者の疾患と看護:模擬事例をもとに、生活行動モデルを用いた看護過程展開について学ぶ。	講義	脳卒中および誤嚥性肺炎、心不全等をもつ高齢者の看護について調べる。	2	
10		演習		2	
11	模擬事例をもとに、目標志向的思考と問題解決型思考の看護について学び、状況に応じて双方の考え方を看護実践に活かす方法を学ぶ。	講義 演習	目標志向的思考と問題解決型思考の看護について学び、模擬事例の看護計画を立案する。	2	
12				2	
13	高齢者の疾患と看護:脳卒中後遺症と生活機能障害を持つ高齢者の看護について模擬事例を通して学び、意見交換を行う。	講義 演習	脳卒中および高次脳機能障害を持つ高齢者患者の看護の要点を理解する。	2	
14				2	
15	これまでの学習を総括すると共に、今後の実習にむけて必要な知識・技術を整理する。	講義	今までの講義の学びを振り返る。	2	
試	レポートの評価項目参照				

総合評価割合 (%)		達成度評価					
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	100	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	35	0	0	0	35
	思考・推論・創造する力	0	35	0	0	0	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	0	5
	問題を発見・解決する力	0	25	0	0	0	25
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
レポート	①	✓	講義内で課される課題について提出されたものを総合的に評価する。看護過程の展開に必要な知識、技術、思考、推論、看護援助の方向性を見出す力を中心に判断する。				最終講義時に看護過程の重要点をフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
備 考							
他 担 当 教 員	山崎さやか						
教 員 の 実 務 経 験	佐野は病院の看護師 15 年の実務経験、山崎は病院の看護師 9 年の実務経験を有する。						
実 践 的 授 業 の 内 容	実務経験のある教員の指導の下、実習および病院での看護の實際を踏まえ、高齢者への看護実践に直結する包括的なアセスメントの具体的な方法を学ぶ。						
そ の 他	・ 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。 ・ 本科目の単位取得は、老年看護学実習Ⅱの履修前提条件である。3 年次後期からの臨地実習に向けて重要な内容を学習する。各自しっかりと予習・復習を行った上で講義に臨むこと。 ・ 積極的に質問するなど、主体的に看護過程演習に取り組むことを期待する。						